

少子化に伴う高等学校教育のあり方 に関する提言（案）

令和2年〇月

少子化に伴う高等学校教育のあり方
に関する有識者会議

目次

	頁
はじめに	1
現状	2
提言	
(1) 生徒数の減少を見据えた市内の高等学校のあり方	4
(2) 次世代人材育成に向けた高等学校教育の推進	5
(3) 市立高等学校の役割	6
(4) 神戸市内の高校生に対する多様な教育機会の創出	7
資料	
神戸市内の高等学校を取り巻く状況	9
委員名簿及び開催状況	29

◇はじめに

グローバル化の進展や、AI・IoTといったテクノロジーのさらなる進歩など、社会が大きくかつ急速に変化し続けていく一方で、今後も少子化によって若者の数が引き続き減少していくことが見込まれる。神戸市として、今後の社会の変化に対応できる優れた人材を、いかにして育成・輩出し、あるいは呼び込んでいくかが重要である。特に、社会で活躍するための基礎的な資質や能力を身に着ける時期にある高校生について、その教育のあり方を検討することは、日本社会の今後の成長を見据えた上でも急務である。こうした状況を受け、近年の高等学校教育を取り巻く環境を踏まえた取り組みの必要性などについて検討することを目的に、本有識者会議が開催された。

今後人口減少が進むにつれて、既存の学校の統廃合も想定される中、数の議論と教育水準の維持に終始するのではなく、これを転機として時代の変化に対応した多様な選択肢など、世界で活躍するための教育を高校生に提供していくべきである。そのためには、優秀な人材を輩出するという志を同じくする市立・県立・私立高等学校の役割分担及び連携が必要不可欠であり、特に私立の力を最大限に活用しながら、市として高等学校教育改革に取り組むことが必要と考える。

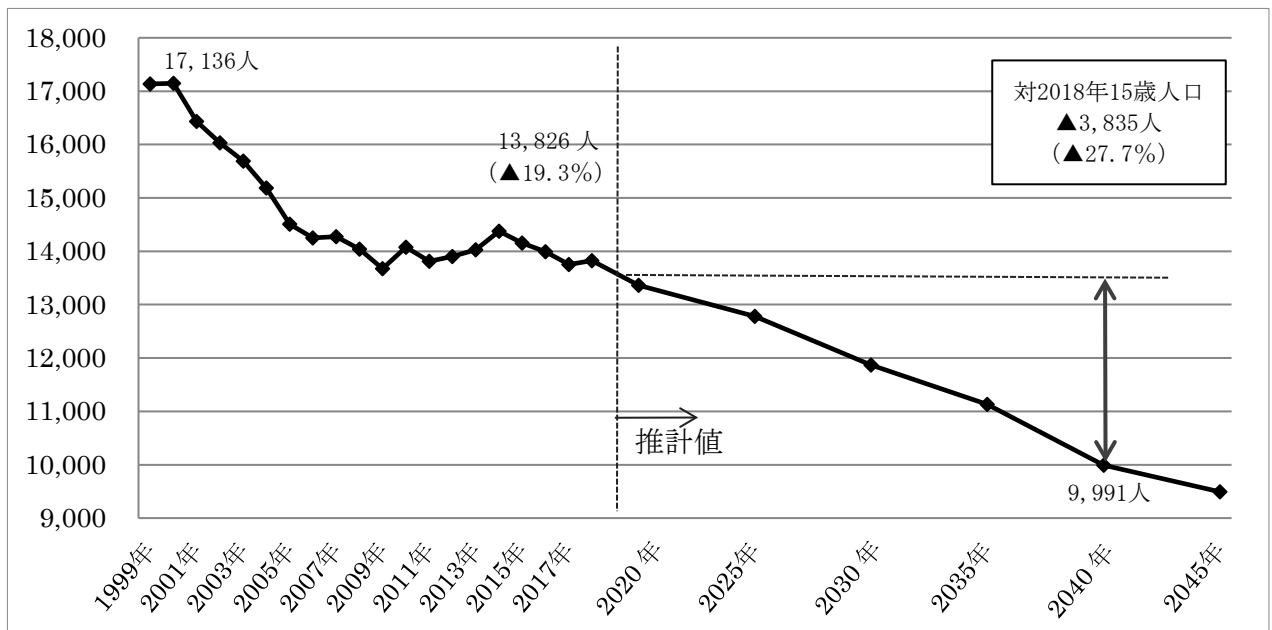
今回の提言では、この視点を前提に、神戸市域の高校生の教育環境の充実に向けて今後神戸市において取り組んでいただきたい方向性についてとりまとめた。提言を踏まえ、将来の人材育成に向けた魅力ある教育環境を実現するべく、市長と教育委員会が密に連携しながら、具体的に取り組むを進めていただくことを願う。

◇現状

我が国の人口は平成 20 年以降減少に転じ、世界的に見ても空前の速度と規模で少子高齢化が進行するなど、厳しい事態に直面している。

神戸市においても、2018 年までの 20 年間で 15 歳人口が約 2 割（3,310 人）減少したが、今後 2040 年までには、さらに約 3 割（約 3,800 人）の 15 歳人口の減少が見込まれる。[図 1]

[図 1] 神戸市内の「15 歳人口」の推移及び将来推計



出典：「住民基本台帳人口（各年 3 月末時点）」

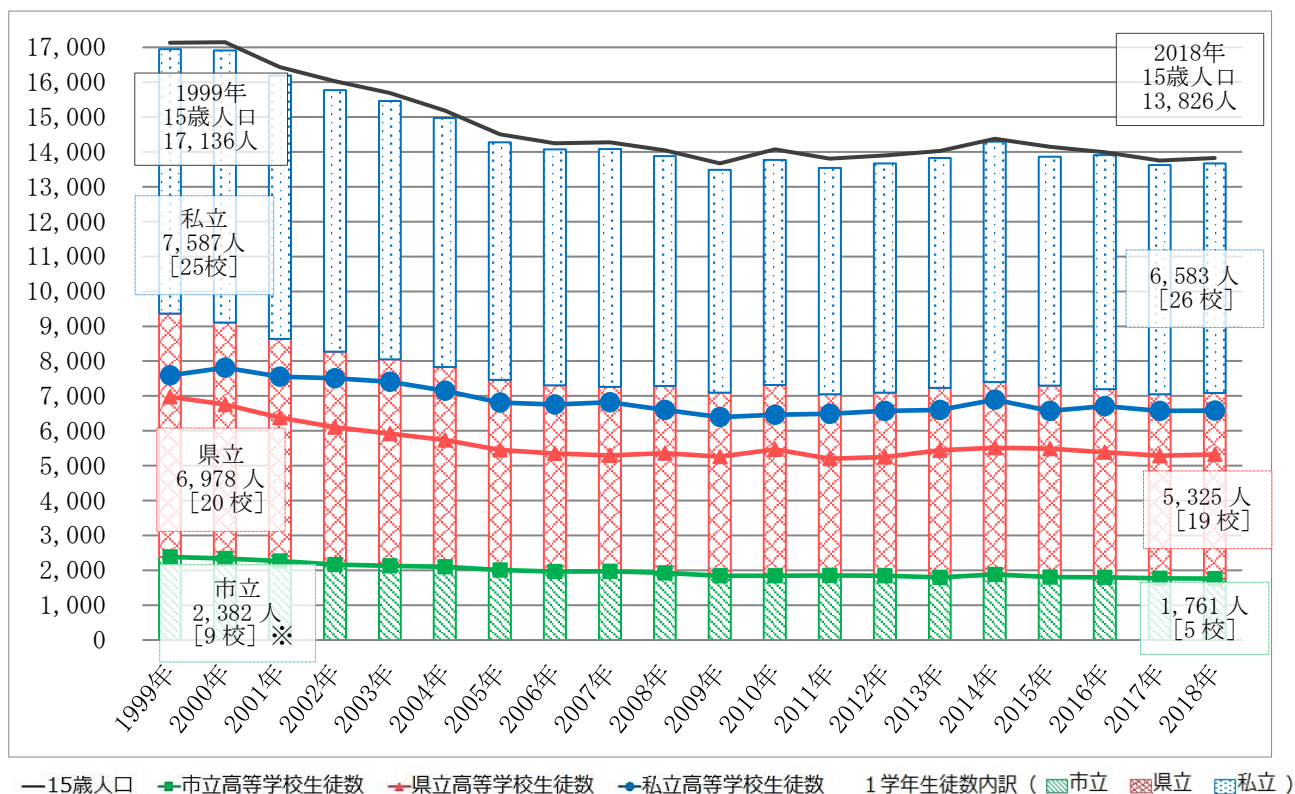
※2012 年以前の 15 歳人口は、2013 年時点の生徒数（1 学年）に対する人口の割合で算出。

また、2020 年以降の 15 歳人口は、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の 15-19 歳人口を 2018 年 3 月の各年齢比で按分し算出。

2018年までの20年間で、各高等学校の生徒数はそれぞれ、市立が約600人（26.1%）、県立が約1,600人（23.7%）、私立が約1,000人（13.2%）減少している。[図2]

この生徒数の減少に対し、市立高等学校は、統廃合等により、学校数を9校から5校へと4校削減し、学級数も削減している。県立・私立に関しても、1学年当たりの学級数や1学級当たりの生徒数を減らして対応しているものと考えられる。

[図2] 神戸市内の15歳人口と市内高等学校（全日制）の生徒数（1学年）の推移



出典：「住民基本台帳（各年3月末時点）」及び県立、私立の生徒数（1学年）は兵庫県教育委員会より数値入手。（2012年以前の15歳人口は2013年時点の15歳人口と生徒数の割合で割り戻して算出。）

※1998年～2000年は六甲アイランド高等学校への統廃合の過渡期であり、六甲アイランド高等学校・赤塚山高等学校・神戸商業高等学校の3校が存在する。実質1校減のため、2校分とカウントし計上。

今後さらなる生徒数の減少が見込まれる中、市立・県立・私立がそれぞれで対応しているのは、効果的な教育の実施や効率的な学校運営が難しくなる可能性がある。

◇提言

(1) 生徒数の減少を見据えた市内の高等学校のあり方

○学校の適正規模

生徒が他者との関わり合いの中で社会性を養うことができるよう、また、教育の質を確保するため、1学年の生徒数については一定以上の規模を維持する必要がある。従来の、人口減少に伴い募集定員(学級数)を削減するという対応には限界があることから、公私の垣根を越えて、神戸市内の高等学校の学校数の削減など適正化を検討するべきである。

○学校の配置

学校数の適正化にあたっては、多様な能力・適正、興味・関心を持った生徒が、過度な通学上の負担を強いられることなく、より多くの選択肢の中から希望する学校を選択できるよう、地域の実情や学校の特色に応じた適正配置に留意するとともに、公立・私立の地域的な役割分担を考えることが望ましい。

○公私協調の取り組み

人口が減少し、新たな投資が限られる中、私立の高等学校や教員等も公教育を担う貴重な財産であり、民間にその力を遺憾なく発揮させるとともに、公立による補完によって、効率的かつ魅力ある教育の提供を実現するという視点も重要である。

既存の教育資産を有効活用し、学校ごとの適正規模を維持する観点から、公私間の役割分担を明確化し、必要な再編を実施することが望ましい。

神戸市は、特に普通科を中心に、伝統ある私立高等学校が多くあり、県立高等学校の配置も充実していることから、市立高等学校のさらなる削減も視野に入れ、各校の教育活動の特色を踏まえた最適な神戸市内の教育環境について検討すべきである。

また、これら生徒数の減少を見据えた市内の高等学校のあり方を踏まえ、兵庫県においても、私立高等学校の配置状況を十分に考慮した上で、市内の県立高等学校の配置及び規模の適正化について積極的に検討するとともに、市立高等学校や私立高等学校が自主的・主体的に経営面と教育面における決定ができるよう改善するべきである。

(2) 次世代人材育成に向けた高等学校教育の推進

○今後の高等学校教育に求められるもの

高等学校教育は、全ての学科において、単に目前の大学進学を目指すだけのものではなく、生徒自身が20年、30年後のキャリアを意識して、必要な力を身につけられるものでなければならない。

今後の社会は、グローバル化が前提となり、AI・IoT等のテクノロジーのさらなる進化も見込まれることから、神戸市内の高等学校に通う生徒が国際社会で求められ、対応できる人材となるよう、基礎的な教養として、英語とICTリテラシーに加え、情報化社会やグローバル化に対応した異文化や考え方の違う人とのコミュニケーション能力を身につけられる仕組みを構築すべきである。

○次世代教育を担う教員人材の育成

また、次世代人材の育成に向けては、教員が、昨今のめまぐるしく変化するテクノロジーの発展等について、新たな知識を会得できる機会を十分に与えられる必要があるとともに、優秀な人材を育てるにふさわしい資質も持たなければならない。しかしながら、教員個人や学校単位での対応には限界があることから、所属する組織の風土や考え方にとらわれて狭い視野で判断することなく、見識を広げられるよう、公私連携による研修実施や課題共有、人材交流、民間企業等外部機関への派遣研修の推進、共通の相談窓口の設置など、外部の視点を取り入れる仕組みを作り、教員が切磋琢磨し合えるよう市全体で取り組むべきである。

(3) 市立高等学校の役割

○神戸らしい特色ある教育の実践

国際都市・神戸の歴史と役割、また、今後のグローバル化のさらなる進展を踏まえると、「国際」をキーワードとした特色ある教育の提供が求められる。特に、既に高度な国際教育の取り組みを進めている葺合高等学校の国際科について、海外の大学への進学も当然の選択肢となる環境作りや、同じく国際的人材の育成を進める神戸市外国語大学などの高等教育機関との連携・接続も視野に入れるなど、より専門的かつレベルの高い教育を推進し、その特色に一層磨きをかけていくべきである。

また、グローバル化とテクノロジーの進化に対応しつつ、阪神・淡路大震災を経験した都市として、防災教育や、他者を尊重し、人とのつながりを大事にする教育に取り組むことが、市立高等学校並びにその卒業生の魅力形成につながる。

○地域の産業を担う人材の育成

市立高等学校では、歴史ある女子教育と実業教育の振興を通じて、地域の産業を担う人材を数多く輩出してきた。引き続き、商業科及び工業科において、地域で活躍する人材の育成に取り組んでいくことが求められる。

○市立高等学校全体でのマネジメント機能の向上

総合教育会議を通じて、神戸市長がリーダーシップを発揮し、市が目指す次世代人材育成の推進に向けて、市立高等学校全体として一貫した目標を定め、その達成のために各学校で特色ある教育を提供していくことが望ましい。

その際、市立高等学校による緩やかな連合体を形成するなどし、独自のカリキュラムの共通実施や教員の異動等の柔軟化、あるいは全市立高等学校のマネジメントを専門的に実施する部門の設置など、学校間の連携を強化しながら目標達成に取り組むべきである。

また、優秀で意欲ある教員の確保及び育成に向けて、中途採用など多様な人材確保の工夫を行うとともに、能力ある若手教員を積極的に管理職に登用されたい。さらに、教員の資格取得や外部機関への派遣経験、あるいは勤務している学校そのものの評価を、人事評価や給与へ反映するなど、教員の意欲向上を促す処遇改善を図ることが求められる。

(4) 神戸市内の高校生に対する多様な教育機会の創出

○自治体の主体的な取り組み

神戸市として、将来神戸市内で活躍し、あるいは神戸から全国や海外へ羽ばたく人材を育成するため、例えば世界で活躍する方を招いた講演会の開催や海外の教育機関との連携授業、あるいは持続可能な開発目標（SDGs）の課題に沿った学びなど、市内の高等学校に通う全生徒が、最先端あるいは神戸ならではの世界に触れられる機会の創出に取り組んでいただきたい。

また、市が主体的に市内企業や大学等と連携を図り、インターンシップや海外留学プログラムを充実させるなど、多様な経験ができる機会を市内の高校生に提供していくことが、神戸市内の高等学校のさらなる魅力向上と神戸を担う人材の輩出、ひいては神戸の創生につながるものと考えている。

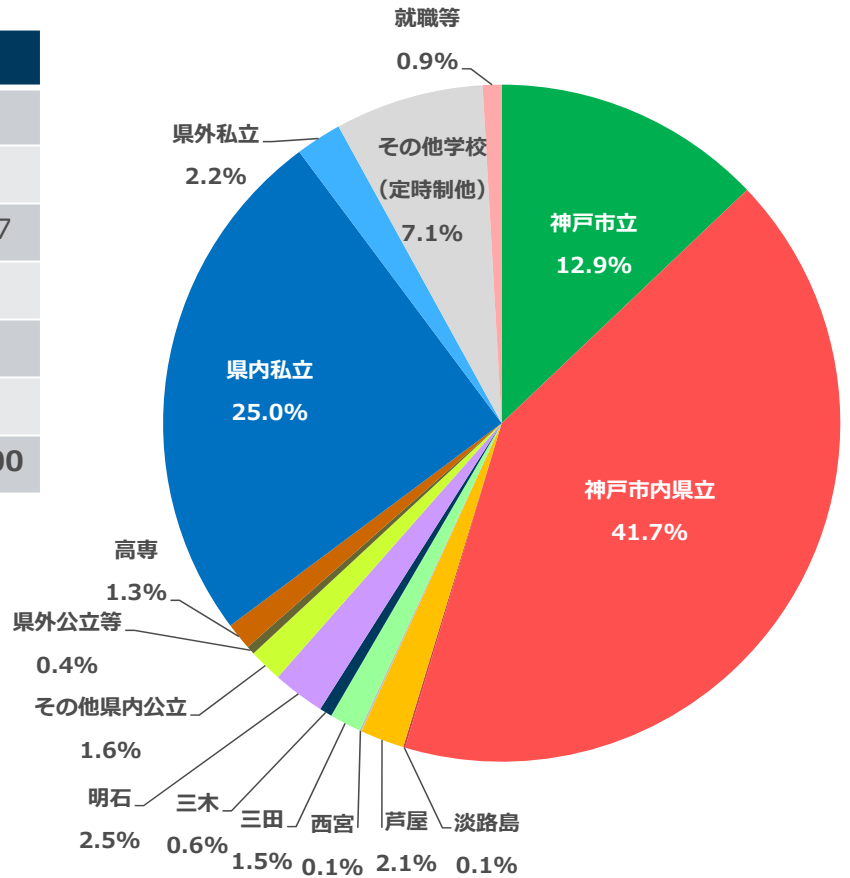
資料

神戸市内の高等学校教育を取り巻く状況

市内公立中学校卒業者の進路

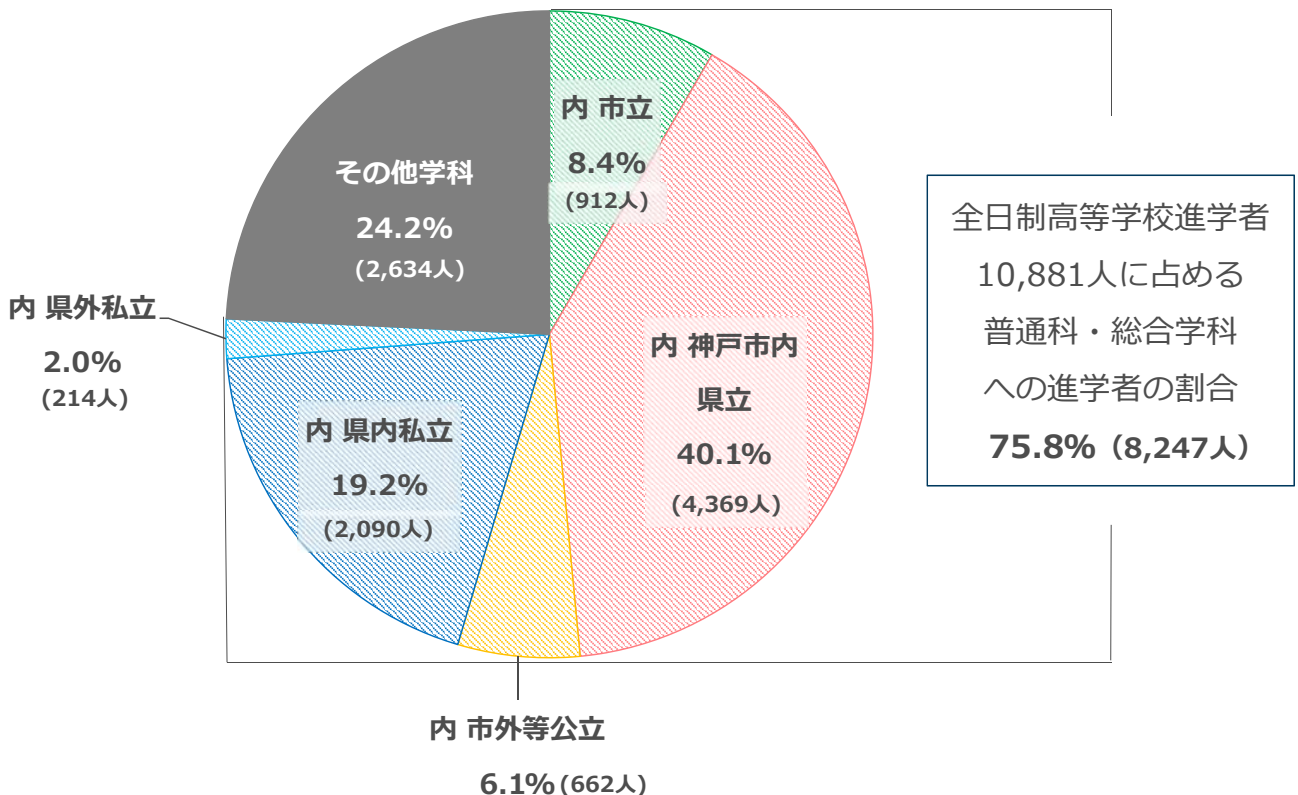
神戸市内公立中学校を2018年3月に卒業した者の進路

	進路	人数	進路	人数
市立	六甲 アイランド	351	県外公立等	49
	科学技術	273	高専	159
	葺合	294	県内私立	3,007
	神港橘	311	県外私立	260
	須磨翔風	315	その他学校	858
県内公立	神戸市内 県立	5,005	就職等	102
	淡路島	8	合計	12,000
	芦屋市	253		
	西宮市	13		
	三田市	176		
	三木市	69		
	明石市	307		
	その他公立	190		



市内公立中学校卒業者の進路 (学科別)

普通科・総合学科とその他の学科の進学者の割合



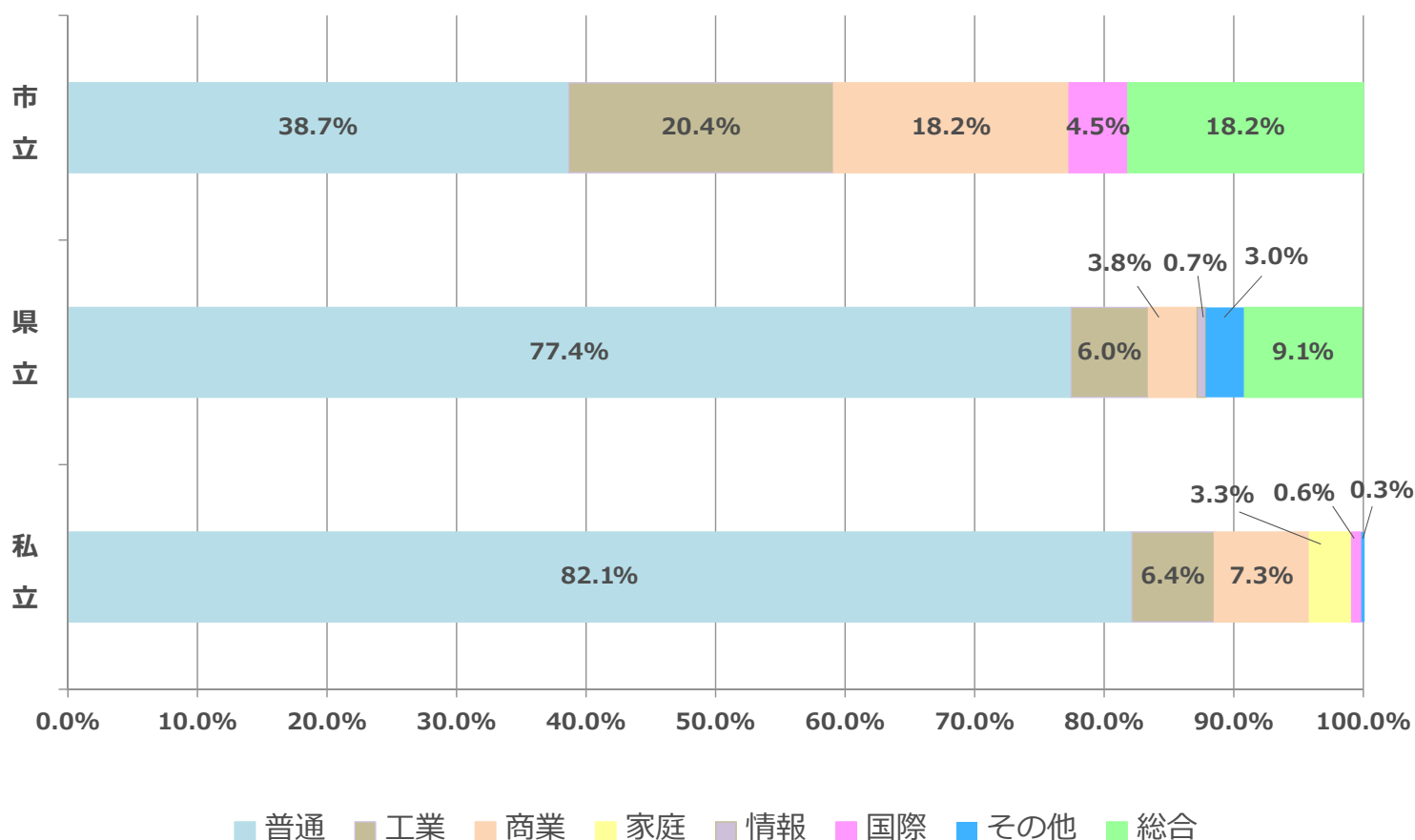
学科の設置状況

※上段は学科数、下段のカッコ書きは2018年度の1学年生徒数

	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	国際	その他	総合	合計	「その他」の内訳
市立	2 (681)	- (-)	1 (360)	1 (320)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (80)	- (-)	1 (320)	6 (1761)	
県立	15 (4125)	- (-)	1 (318)	1 (200)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (40)	- (-)	- (-)	4 (160)	2 (483)	24 (5326)	総合理学科（神戸） 創造科学科（兵庫） 環境防災科（舞子） 会計科（神戸商業）
私立	24 (5413)	- (-)	1 (419)	2 (483)	- (-)	2 (215)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (42)	1 (17)	- (-)	31 (6589)	音楽科（神戸山手女子）
公立	17	-	2	2	-	-	-	1	-	1	4	3	30	
私立	24	-	1	2	-	2	-	-	-	1	1	-	31	
計	41	-	3	4	-	2	-	1	-	2	5	3	61	

出典：市立及び県立は各教育委員会HP、私立は「兵庫の私学2019」（兵庫県私立中学高等学校連合会）の情報を基に、「学校基本調査」における学科の集計分類にあてはめて作成。
公立の1学年生徒数は兵庫ジャーナル社「2019ひょうごのハイスクール」より2018年度在籍生徒数。
私立の1学年生徒数は兵庫県私立中学高等学校連合会より提供の2018年5月1日現在の人数。

2018年度1学年生徒数の学科別割合

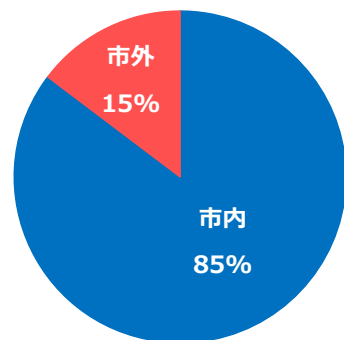


入試選抜制度

通学区

2019年度入学生の出身中学割合

- 神戸市規則で兵庫県立高等学校の学区に準じて通学区を規定
- 普通科、総合学科の学区は兵庫県の第1学区(神戸市・芦屋市・洲本市・南あわじ市・淡路市)であり、市内受験生は一部区域では隣接区域の受験も可能(神戸市では北区から西宮市・三田市・三木市、西区から明石市・三木市の高等学校を受験可能)
- 学科やコースによって推薦入試による受験が可能であるとともに、推薦と専門学科は県下全域から受験可能



項目	推薦入試(2月受験)	一般入試(3月受験)
対象となる高校・学科 ※カッコ内は2019年度の募集定員	<ul style="list-style-type: none"> ・六甲アイランド(200名) ・須磨翔風(140名) ・葺合【国際科】(80名) ・科学技術(180名) ・神港橋(160名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・六甲アイランド(200名) ・葺合【普通科】(280名) ・須磨翔風(140名) ・科学技術(180名) ・神港橋(160名)

※下線は県下全域で受験可能

入試制度

- 兵庫県と同一の入学選抜要綱で入試を実施
- 普通科及び総合学科では複数志願選抜を実施(第2志望まで届出可能)
- 要綱の作成(入試制度の決定)は県が中心に行っており、大きな変更がある際に確認を求められる

兵庫県における通学区域の見直し

2014年度以前



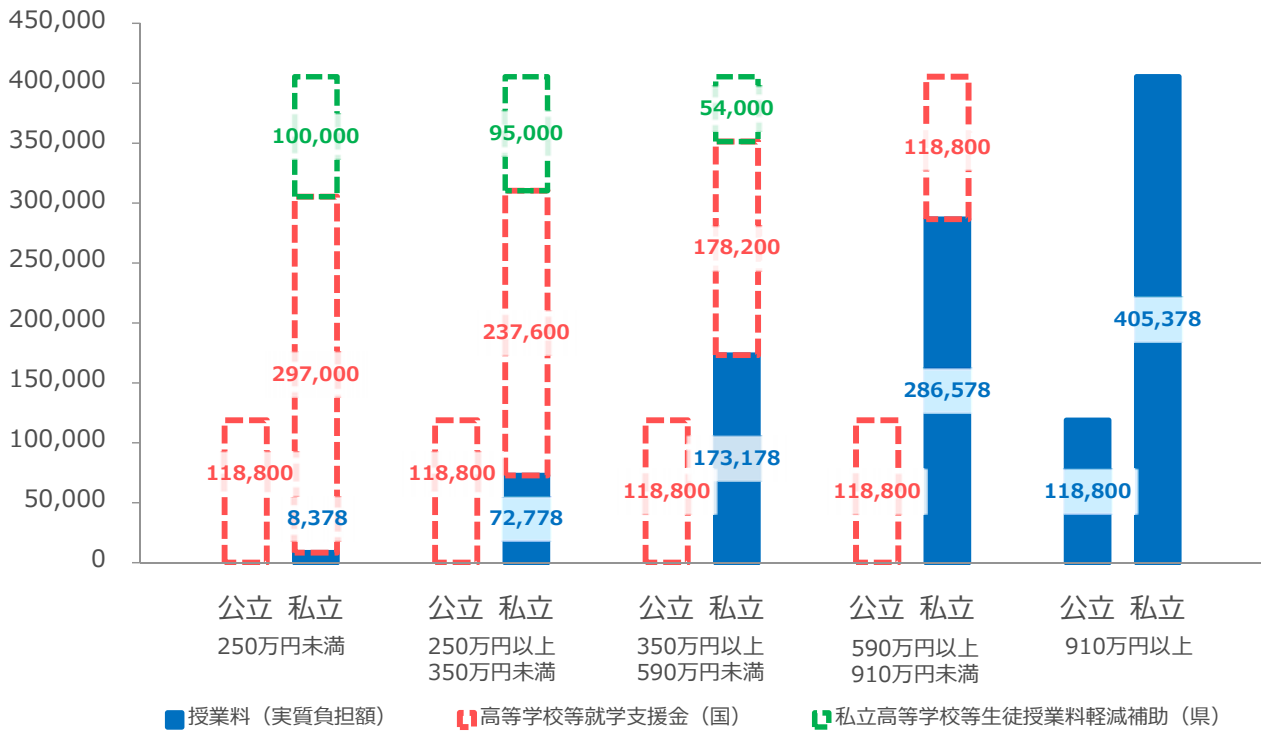
2015年度以降



画像出典：マピオン兵庫県地図を加工

※神戸第1・芦屋学区・・・東灘区、灘区、中央区、兵庫区のうち神戸生田中及び楠中の区域、芦屋市
 神戸第2学区・・・兵庫区(第1学区の区域以外)、北区、長田区(第3学区の区域以外)、須磨区のうち雲雀丘中の区域
 神戸第3学区・・・長田区のうち西代中・高取台中・太田中の区域、須磨区(第2学区の区域以外)、垂水区、西区

神戸市内公立・私立高等学校授業料 世帯年収別負担額



※年収はあくまで目安であり、実際の支給金額は住民税額により判断される。年収250万円未満は住民税非課税世帯の目安である
 ※私立高等学校授業料は市内私立高等学校26校(男子校:4校、女子校:9校、共学校:13校)の授業料を各校の生徒数で按分した平均値であり、各校が公表している2019年高等学校入学試験要項等から調査した金額。
 高等学校入学試験を実施していない一部の中高一貫校の授業料は同年の中学入学試験要項等で確認した金額としている

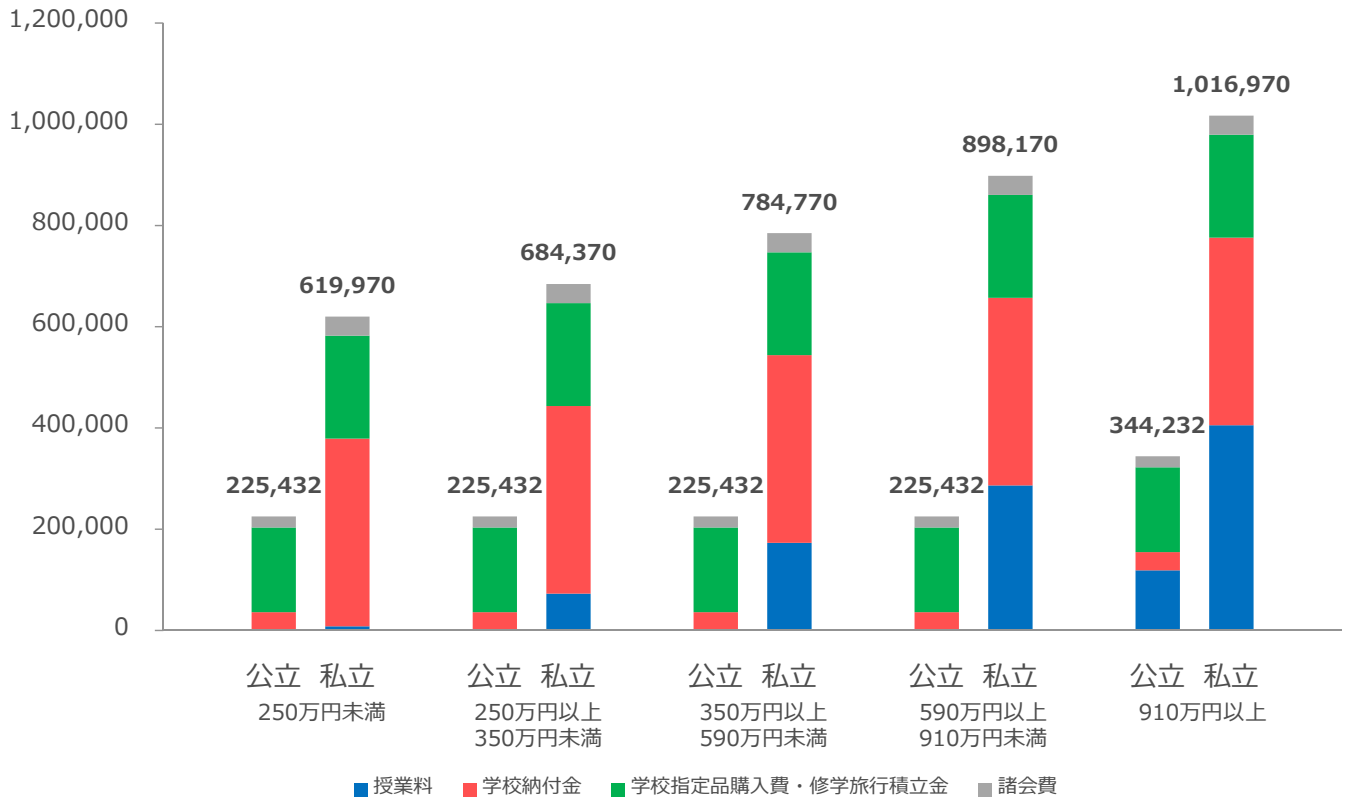
「新しい経済政策パッケージ」(2017年12月8日閣議決定)において、年収590万円未満世帯を対象とした私立高等学校授業料の実質無償化を2020年度までに実現する旨が示された

第1学年における授業料以外の学校教育費

内訳 (経費例)		公立高等学校	私立高等学校
※全国の公立・私立高等学校の平均値			
諸会費	学年費・生徒会費・PTA(育友)会費	225,432円 (参考)3ヶ年合計481,186円	611,592円 (参考)3ヶ年合計1,091,264円
学校指定品購入費 修学旅行積立金	教科書費・体育用品等購入費・制服費用・通学用品費・修学旅行を行うために徴収した経費	21,835円 (参考)3ヶ年合計61,243円	37,758円 (参考)3ヶ年合計102,088円
学校納付金	入学検定料・入学金・施設整備資金・学校運営のための徴収金(教育充実費・生徒活動後援費・図書費など)	167,495円 (参考)3ヶ年合計332,872円	203,288円 (参考)3ヶ年合計414,977円
		36,102円 (参考)3ヶ年合計87,071円	370,546円 (参考)3ヶ年合計574,199円

- 授業料以外の学校教育費に関する私立高等学校の支出額は公立高等学校の支出額の約3倍
- 神戸市内の私立高等学校の学校教育費では、入学金や施設整備資金など「学校納付金」が上記よりもさらに10万~20万円高い傾向がある
- 上記経費以外の学校教育のための経費として、「通学費」「クラブ活動などの経費」がある

公立・私立高校学校教育費 世帯年収別負担額（第1学年）



※私立高等学校の授業料は各学校（学科・コース）毎の授業料を生徒数で按分した平均値

※「学校納付金」・「学校指定品購入費・修学旅行積立金」・「諸会費」は2016年度「子供の学習費調査」（文部科学省）より全日制高等学校第1学年の学校教育費について作成。なお、「通学費」及び「教科外活動費（クラブ活動費等）」を除いて合算している

※年収250万円未満の世帯には奨学給付金（授業料以外の教育費負担を軽減）を受給している世帯も含まれると考えられる

（参考）2018年度の第1子の高校生がいる世帯に対する奨学給付金

公立高校：90,400円（80,800円（国）、9,600円（神戸市）） 私立高校：103,400円（89,000円（国）、14,400円（神戸市））

市立高等学校概要（六甲アイランド高等学校①）

沿革

- 1998年 神戸商業高等学校と赤塚山高等学校を再編・統合し開校(普通科総合選択制)
(六甲アイランドに新築)
- 2005年 普通科単位制へ移行

設置学科

普通科（単位制）

募集定員（2019年度）

400人（10学級）

在籍生徒数（2019年5月1日現在）

	第1学年	第2学年	第3学年	合計
生徒数	400	392	389	1,181
学級数	10	10	10	30

(再掲)男女別生徒数

男子：484人

女子：697人

学校の規模・環境

敷地面積： 45,975㎡

延べ床面積： 20,174㎡

築年数： 21年(1998年3月完成)

校舎： 3階建てまたは5階建ての校舎が4号館まであり、広々としている

環境： ・校舎敷地が綺麗で規模も大きく、駅前での利便性が高い

・全室エアコン完備（市立高等学校共通）

その他施設： 多目的ホール、屋上プール、トレーニングルーム、個人レッスン室（音楽コース）や大講義室等

市立高等学校概要（六甲アイランド高等学校②）

教育目標

- 心豊かに生きる人を育む ○生徒一人一人の個性を生かし、生涯にわたって心豊かにたくましく生きる人間を育成する
- ・自立性を育む ・豊かな社会性を育む ・国際性を育む ・地域社会に根ざした学校を創造する

カリキュラムの特色

- 学習分野を7つの「系」と9つのコースに編成し、2・3年次からは希望進路に合わせて各コースで専門性の高い科目や、約100科目の科目からさらに必要な科目を選択し学習 ※社会科学系、国際人文系、総合科学系、芸術系（音楽コース、美術・デザインコース）、ビジネス系、情報科学系、人間科学系（生活福祉コース、スポーツコース）
⇒卒業生の所属系と進学先学部的一致率は平均80%。また、美術・デザインコースは市内唯一
- 神戸商業高等学校の流れを汲み、商業系資格取得にも強い（旧第1学区内には商業科なし）
- 文部科学省スーパーサイエンスハイスクール(SSH)2期目（2019年度指定：212校）
- 多数の大学と連携し、大学の講義受講や特別推薦入試を実施

その他

- 愛市教育「神戸学」の実施（生徒が神戸に関する研究テーマを設定し、調査研究活動・研究発表を行う授業）
- 旧第1学区内で他に同程度または学力の近い公立高等学校がないため、受験生・保護者からの需要が高い（2019年度志願倍率：1.41倍）。また、青少年の生活態度が変化する中、受験生の単位制高等学校への人気が高まっている
- 教育再生実行会議第11次提言（2019年5月）で指摘されている普通科の「特色化」と「類型化」を既に実行している、市内でも数少ない学校（現第1学区内で、他に普通科単位制を採用している公立高等学校は北須磨・芦屋高等学校のみ）
- 進学雑誌（ユニヴ・プレス2019年6月号）において「この10年で伸びた高校」として掲載され、進学実績が対外的に評価
- 自習室を年中開放し、補習も手厚い

市立高等学校概要（六甲アイランド高等学校③）

2019年度入学生の出身中学校

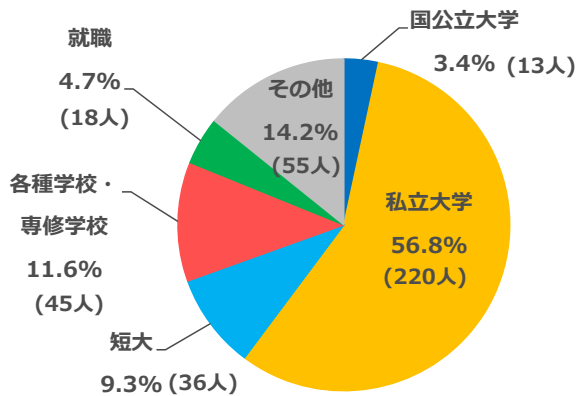


- ・市内出身者のうち約85%は東灘・灘・中央区
- ・市外は芦屋市・西宮市・尼崎市等で、特に芦屋市出身者が多く市外出身者のうち1割を占める

【参考】生徒募集について

定員400名のうち 200名：推薦（県下全域で受験可能）
200名：一般（第1学区）

卒業後の進路（2018年度卒業生）



【主な進学先】

近畿/ 神戸学院/ 甲南/ 関西/ 神戸松蔭女子学院/
甲南女子/ 関西学院/ 武庫川女子/ 大阪経済/ 流通科学/
関西外国語/ 神戸女学院/ 武庫川女子短期 等

【主な就職先】

(株)蓬莱/ 神戸国際ステージ(株)/ 日本郵便(株) 等

市立高等学校概要（葺合高等学校（普通科）①）

沿革

- 1949年 葺合高等学校（普通科・商業科）設置
（旧制神戸中学校の流れを汲む）
- 1951年 商業科分離（→神戸商業高等学校）
- 1986年 英語科設置 →2001年国際科に改編
- 2012年～2016年 校舎施設の現地全面建替え

設置学科

普通科、国際科

募集定員（2019年度）

普通科 280人（7学級）

在籍生徒数（2019年5月1日現在）

	第1学年	第2学年	第3学年	合計
生徒数	281	278	275	834
学級数	7	7	7	21

（再掲）男女別生徒数 男子：330人 女子：504人

学校の規模・環境

敷地面積： 24,248m²

延べ床面積： 14,191m²

築年数： 5年（2013年12月完成）

校舎： 本館（全普通教室と特別教室の多くを設置）、
北館、国際交流棟

環境： 校舎は建て替え4年目で新しく、
過ごしやすい

その他施設： CALL教室(4)、日本文化室、
講義室（約400人収容）

教育目標

○明るく、活気に満ち、充実した高校生活の
創造をめざして

- ・自ら考え、自ら学ぶ意欲を高めよう
- ・自ら律し、自ら努める態度を育てよう
- ・自ら選び、自ら進む方向をみいだそう

市立高等学校概要（葺合高等学校（普通科）②）

カリキュラムの特色

- コース（類型）制を採用しており、1年では共通科目を学習し、2年からは文系・英語系・理系の3つの系に分かれてそれぞれの系の科目を学習
- 普通科においても、常勤の外国人講師による授業を始め、英語教育が充実
⇒英語系では、選択科目で中国語やスペイン語、英語探求やエクステンシブ・リーディングの授業も受講可能
- 2019年度、文部科学省が実施するWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業における全国10校の拠点校の1校として選定
⇒学校として選ばれているため、国際科だけでなく、普通科も含めた全校生徒に対して超未来型グローバルリーダーを意識した教育を実践
- 教育再生実行会議第11次提言（2019年5月）においても、Society5.0時代をたくましく生きるために文理融合の学びが提案されているところ、人権、環境、経済等のテーマについて社会的側面と科学的側面を意識しながら課題研究を行う「学際リサーチ」を学校設定科目として新設するなど、文理融合の取り組みを推進
- 例年、40名から80名の生徒が英語系を選択（1学年約280名中）

その他

- ボランティア活動に熱心で、“Table for two”の活動など、食を通じて社会貢献を考える意識活動を実践

市立高等学校概要（葺合高等学校（普通科）③）

2019年度入学生の出身中学校

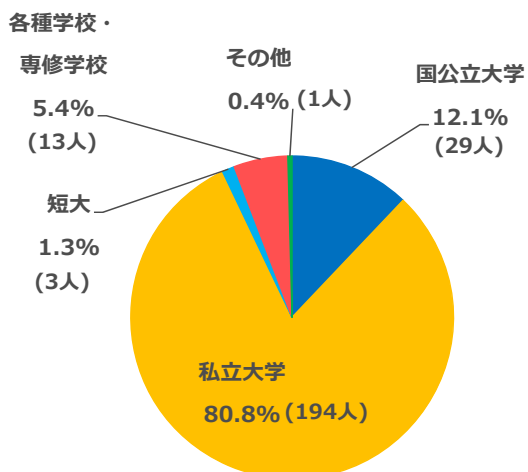


- ・市内出身者のうち約75%は東灘・灘・中央区
- ・市外は芦屋市・淡路市等で、特に芦屋市出身者が多く市外出身者のうち85%を占める

【参考】生徒募集について

定員280名すべて一般（第1学区）

卒業後の進路（2018年度卒業生）



【主な進学先】

近畿/ 関西/ 甲南/ 関西学院/ 同志社/
武庫川女子/ 神戸学院/ 甲南女子/ 立命館/
兵庫県立 等

市立高等学校概要（葺合高等学校（国際科）①）

※沿革、施設、教育目標等は普通科と共通

募集定員（2019年度）

80人（2学級）

在籍生徒数（2019年5月1日現在）

	第1学年	第2学年	第3学年	合計
生徒数	80	80	77	237
学級数	2	2	2	6

（再掲）男女別生徒数 男子：51人 女子：186人

カリキュラムの特色

- 英語の学習に授業時間の3分の1を充てている一方、専門科目を含む多様な科目選択も可能
⇒国際理解を深める専門教科「国際」や、第2外国語としてスペイン語・中国語など
- 7人の外国人講師が常勤
- 2014年から5年間文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定（2014年度指定：56校）
- 2019年度文部科学省が実施するWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業について、全国10校の拠点校の1校として選ばれており、全校生徒に対して超未来型グローバルリーダーを意識した教育を実践 ※神港橋・須磨翔風・科学技術も共同（六甲アイランドはSSH指定のため対象外）
- ・短期海外研修、全国英語スピーチコンテスト等を実施

その他

- 英語検定試験の取得者が多い（英検1級：11名、準1級：112名）
- スピーチコンテスト・ディベートコンテストで、全国大会優勝など常に上位に進出

市立高等学校概要（葺合高等学校（国際科）②）

2019年度入学生の出身中学校

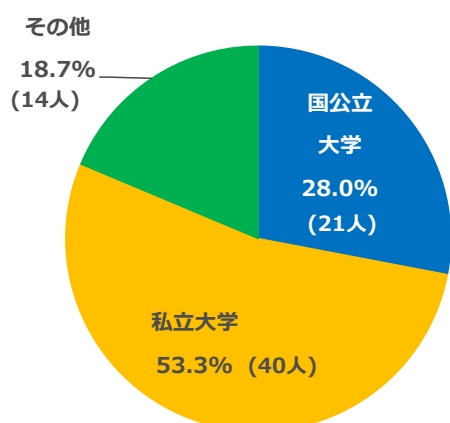


- ・市内出身者のうち50%は東灘・灘・中央区
- ・市外は西宮市、芦屋市、明石市等で、市外出身者のうち約28%は西宮市

【参考】生徒募集について

定員80名すべて推薦（全県下）

卒業後の進路（2018年度卒業生）



【主な進学先】

関西学院/ 立命館/ 近畿/ 甲南/
神戸市外国語/ 同志社/ 大阪/
関西外国語/ 東京外国語 等

市立高等学校概要（須磨翔風高等学校①）

沿革

2009年 須磨高等学校と神戸西高等学校を再編統合し
開校（旧神戸工業高等学校跡地に新築）

設置学科

総合学科（単位制）

募集定員（2019年度）

280人（7学級）

在籍生徒数（2019年5月1日現在）

	第1学年	第2学年	第3学年	合計
生徒数	280	316	309	905
学級数	7	8	8	23

（再掲）男女別生徒数 男子：391人 女子：514人

学校の規模・環境

敷地面積： 39,320㎡
延べ床面積： 16,066㎡
築年数： 10年（2009年4月完成）
校舎： A～E棟（主に4階建て）
その他施設： ICT教室(5)、CALL教室(2)、
トレーニングルーム、
キャリアセンターなど

教育目標

「人・社会・希望につながる学校」

- ・充実したキャリア教育
- ・徹底した学力の伸長
- ・積極的な地域連携
- ・豊かな心の育成

市立高等学校概要（須磨翔風高等学校②）

カリキュラムの特色

総合学科とは

技術革新の進展に伴い産業・就業構造が大きく変化している時代にあり、従来の特定の職業のための職業教育だけでなく、あらゆる職業に共通の実践的な知識・技能の習得が求められているとの認識から、普通科と職業学科を統合するような新たな学科を1994年から導入
⇒特色：①幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視
②将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視

- 5つの選択科目群「国際・文化」「科学・環境」「福祉・健康」「経営・情報」「教育・人間」の中から、生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視
※コース制ではないため、複数の選択科目群の中から自由に組み合わせて選ぶことが可能であり、2・3年次に各生徒が100以上の選択科目の中から自分の進路目標に応じて時間割を作成（※普通科特色コースとの違い）
- キャリアセンターを配置し、「キャリアプランニング」をはじめ、学力向上、近隣の学校園・大学や地域との連携、キャリア教育の企画運営、担任とともに生徒・保護者へのアドバイスや相談などを実施
- 学校設定教科で「教育科」科目「教育入門体験」（2年次）「学内教育実習プログラム」（2年次）「教育問題の理解と発信」（3年次）がある。卒業生のうち2018年12月現在で14名が保育士・教員として活躍

その他

- キャリア教育優良校文部科学大臣表彰（2012年度）
- 2019年度兵庫県春季高校野球春季大会準優勝
- 神戸の活性化に関するトークショーに出演するなど、市の事業にも積極的に参加
- 生徒指導が手厚い

市立高等学校概要（須磨翔風高等学校③）

2019年度入学生の出身中学校

市外
2.9%

- ・市内出身者のうち約60%は須磨・垂水・西区
- ・市外は明石市、西宮市、淡路市、伊丹市、大阪府等

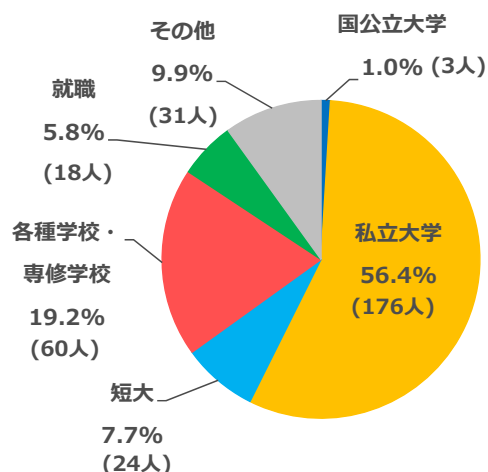
【参考】生徒募集について

定員280名のうち 140名：推薦入試（全県下）

140名：一般入試（第一学区）

市内
97.1%

卒業後の進路（2018年度卒業生）



【主な進学先】

神戸学院/ 甲南女子/ 神戸女子/ 甲南/ 近畿/
神戸親和女子/ 大阪体育/ 関西国際/ 大阪経済/
武庫川女子/ 流通科学/ 神戸女子短期/ 頌栄短期 等

【主な就職先】

防衛庁/ 兵庫県警察/ 大阪府警察/ 神戸市消防局/
阪急電鉄(株)/ 川崎重工業(株)明石工場 等

市立高等学校概要（科学技術高等学校①）

沿革

2004年 神戸工業高等学校、御影工業高等学校（全日制）
を再編統合し、新総合型工業学校として設立
（神戸製鋼所跡地に新築）

設置学科

工業に関する学科

（機械工学科、電気情報工学科、都市工学科、科学工学科）

募集定員（2019年度）

機械工学科 120人（3学級）

他3学科 各80人（2学級）

在籍生徒数（2019年5月1日現在）

	第1学年	第2学年	第3学年	合計
生徒数	361	354	342	1,057
学級数	9	9	9	27

（再掲）男女別生徒数

男子：971人 女子：86人

学校の規模・環境

敷地面積： 40,414㎡

延べ床面積： 28,796㎡

築年数： 15年(2004年3月完成)

校舎： 1～5号館

（2号館は定時制校舎）

環境： 交通至便な中央区に位置し、
広域から容易に通学可能

その他施設： PC室（600台）、各種実習室、
多目的ホール、トレーニング
ルーム、風力発電、
太陽光発電、屋上庭園、
屋上緑化、先端技術設備
（レーザー加工機、電子顕微鏡）

市立高等学校概要（科学技術高等学校②）

教育目標

- 創造 ものをつくる喜び(資格取得やものづくりを通して、基礎的・基本的な技術を身につける)
- 探求 科学する心(専門技術、先端技術を意欲的に学習する態度を養う)
- 飛翔 未来を拓く力(特色ある授業、学校行事や部活動を通して、自己実現を目指す自主・自立の精神を養う)

カリキュラムの特色

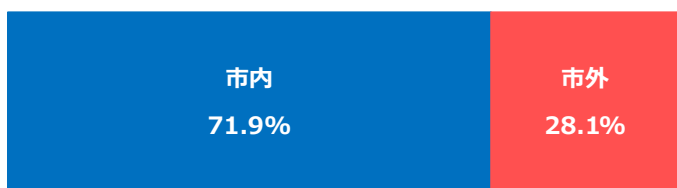
- 機械工学科は、1・2年で設計・製図から製作までものづくりの基礎、3年でマシニング系とロボットメカトロニクス系に分かれて技術を学びつつ、他校の同類学科と違って、国家資格の技能検定で、普通旋盤・フライス盤・マシニングセンタや、JIS.WES半自動溶接技能検定の取得が可能（3割が進学、7割が就職）
- 電気情報工学科は、1・2年で電気・電子系を学び、3年で進路に応じ電気系と情報系に分かれる（進学・就職半々）
- 都市工学科は1年は建築・土木の基礎、2年より建築と土木に分かれて専門的な学習。他校の同類学科との違い、建築と土木について両方学ぶことが可能（進学・就職半々）
- 科学工学科は、1年は機械・電気・化学・バイオ・情報系を幅広く学び、2・3年で進路に応じて理数科学系とスポーツ科学系に分かれる（大部分が進学）
- 2018年4月 全国初の防災士養成事業実施高等学校として授業を開始
⇒阪神・淡路大震災の教訓を風化させず、今後起こりうる災害に備え、地域社会での防災力向上に貢献する人材を育成

その他

- レベルの高い工業技術者を育成し、地元有名企業も含め就職率が100パーセントで、地元産業を支えている
- 高校卒業後3年以内の離職率が9%（全国平均40%）であり、高い定着率

市立高等学校概要（科学技術高等学校③）

2019年度入学生の出身中学校

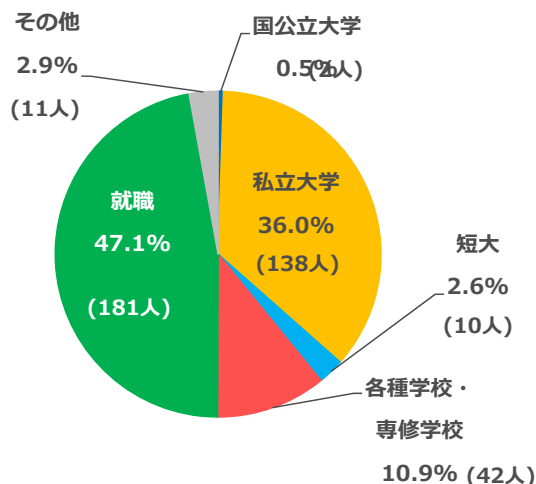


- ・市内各区から幅広く生徒を集めている
- ・市外は西宮市、姫路市、加古川市はじめ県内全域

【参考】生徒募集について

定員280名のうち 140名：推薦入試（全県下）
140名：一般入試（全県下）

卒業後の進路（2018年度卒業生）



【主な進学先】

神戸学院/ 神戸芸術工科/ 大阪工業/ 大阪電気通信/
甲南/ 大阪体育/ 産業技術短期 等

【主な就職先】

(株)神戸製鋼所 神戸製鉄所/ (株)福原精機製作所/
神戸新交通(株)/ 川崎重工業(株)明石工場/
(株)神鋼環境ソリューション/ 住友ゴム工業(株)/
関西電力(株)/ 近畿日本鉄道(株)/ 阪急電鉄(株)/
(株)シンリョー/ 神戸新交通(株) 等

市立高等学校概要（神港橋高等学校①）

沿革

2016年 兵庫商業高等学校と神港高等学校を
再編統合し設立
(旧神港高等学校敷地内に新築)

設置学科

みらい商学科

募集定員（2019年度）

320人（8学級）

在籍生徒数（2019年5月1日現在）

	第1学年	第2学年	第3学年	合計
生徒数	321	314	314	949
学級数	8	8	8	24

(再掲)男女別生徒数 男子：276人 女子：673人

学校の規模・環境

敷地面積： 18,396㎡

延べ床面積： 17,398㎡

別途、押部谷栄に
第2グラウンド保有

築年数： 3年(2016年7月完成)

校舎： 北棟（6階建て）、
南棟（5階建て）、

体育館棟（3階建て）、
体育館管理棟（4階建て）

環境： 校舎が新しく、駅からも近い

その他施設： PCルーム(7)、トレーニング
ルーム、総合実践室、CALL教室

教育目標

- 「ひと」を「たから」ととらえ、神戸を愛し、支える「人財」を地域とともに育てる
- 道徳教育を軸としたキャリア教育を系統的に展開し、人間力としての社会的実践力の育成を図る

市立高等学校概要（神港橋高等学校②）

カリキュラムの特色

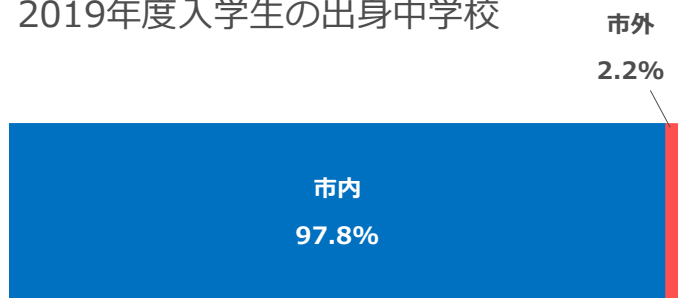
- 単なる簿記等の資格取得に留まらない、ビジネスの場において課題解決のできる人材を育成
- 1年次は、少人数授業・習熟度別授業を通して基礎学力の定着を図り、2年次は、「会計類型」と「情報類型」に分かれて魅力ある商業教育を展開し、質の高い専門性を高める
 - ・「会計類型」：企業活動を支える「簿記」「会計」の知識や技能を身につけるとともに、ビジネスマナーを蓄えた人材を育成
 - ・「情報類型」：プログラミング言語による<システム開発コース>、マーケティングを学ぶ<システム活用コース>
- 3年次は、多様な選択科目を配置し（例：ビジネス情報管理、広告と販売促進）、希望する進路の実現を図る
- 地域や企業と連携した特色ある教育活動を展開
 - 例：近畿日本ツーリストやベル等企業による授業、3年生の商業の授業における通年インターンの実施、高校生ホテル（六甲荘）の運営や大丸神戸店に協力を得た企画実施
(うなシューなど、インターン受け入れから企業間コラボレーションにつながった事例もあり) など

その他

- 愛市教育「神戸ディスカバリー」（1年生が市の職員等の基調講演を聞き、夏季休業中に調査・研究ののち発表）
- 歴史的に商業のさかんなエリア（兵庫区）にあって、卒業生の子弟も多く、地元の支持が強い
- 資格取得に向けた勉強合宿や補習等を随時実施
- 特色部「龍獅團」

市立高等学校概要（神港橋高等学校③）

2019年度入学生の出身中学校



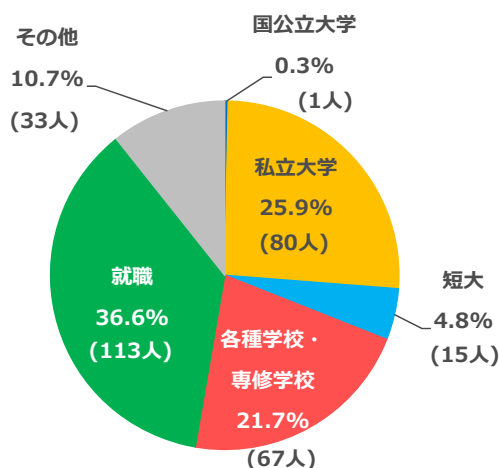
- ・市内出身者のうち約46%は兵庫・北・長田区東灘～中央区、須磨～西区からはそれぞれ25%程度
- ・市外は西宮市、尼崎市、三木市等

【参考】生徒募集について

定員320名のうち 160名：推薦入試(全県下)

160名：一般入試(全県下)

卒業後の進路（2018年度卒業生）



【主な進学先】

神戸学院/ 流通科学/ 大阪商業/ 近畿/ 大阪経済/ 関西/ 夙川学院短期/ 神戸常盤大学短期 等

【主な就職先】

川崎重工業(株)/ 日立オートモティブシステムズ阪神(株)/ (株)エヌ・ケー・ワイ・コーポレーション/ フジパン(株)/ (株)合食/ 西日本旅客鉄道(株)/ (株)ホテルオークラ/ 神戸信用金庫/ (株)新神戸ホールディング/ 神戸電鉄(株)/ (株)神戸製鋼所 神戸製鉄所/ 阪神電気鉄道(株) 等

市立高等学校と私立高等学校との連携状況

スーパーサイエンスハイスクール指定を活用した交流（市外の学校との交流も含む）

○English Island 2018 Summer（六甲アイランド高等学校）

毎年2回、1・2年次を中心に神戸市内に勤務するALT(Assistant Language Teachers)と共に1日を英語のみで過ごし、英語で科学を体験する行事を実施

（参加生徒は約50名、ALTは20名程度）

⇒2018年のテーマ：「Gold Rush」

特別講師に、灘中学校・高等学校の野村敏郎先生を招き、自然界で砂金のできる仕組みや砂金の採取方法を学び、実際に砂金を採取

（立命館高等学校から3名、カネディアン・アカデミーから2名が参加）

教職員の人事交流

実施していない

市立高等学校と県立高等学校との連携状況

学校間連携

○市立神港橋高等学校生徒会が中心となり、県立舞子高等学校とともに「兵庫県防災ジュニアリーダー育成合宿」等に参加。

スーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクール指定を活用した交流

○課題研究交流発表会

各校が取り組む課題研究を発表し合い意見交換を実施するとともに、発表会後も参加校の交流を継続
⇒県立神戸、県立御影、市立六甲アイランド、市立科学技術、市立葺合、市立神港橋

教職員の人事交流

高等学校の学校園、事務局（高校籍）とともに人事交流なし

※他校種では、事務局の中学校籍主事が県教育委員会の中学校籍と人事交流あり（各1名）

市立高等学校と大学との連携状況

授業連携

○六甲アイランド高等学校：専門コースごとに大学の授業体験や「総合的な学習の時間」のサポートを受けている
(主に神戸市との高大連携に関する包括連携協定締結大学)

- ・関西大学、甲南大学、大阪工業大学等の授業受講（古典文学、社会科学、化学、物理学等）
- ・芸術系音楽コースでは大阪音楽大学と相愛大学を訪問してレッスンを受講
- ・美術デザインコースでは京都精華大学や大阪芸術大学等を訪問して授業を体験

○科学技術高等学校：高大連携授業の実施

- ・立命館大学の遠隔授業（コンピュータ理工学に関する遠隔講義をインターネットで生徒が受講）
- ・都市工学科生徒に対し、神戸芸術工科大学による建築学に関する出前授業実施

○葺合高等学校（国際科）：神戸市外国語大学の教授による『英語スピーチ・プレゼンテーションの技法』のワークショップを実施

○神港橋高等学校：キャリア教育における支援（甲南女子大学、神戸山手大学、兵庫県立大学）や商品開発に関する課題研究の支援（流通科学大学）など

○須磨翔風高等学校：キャリア教育における支援（神戸市外国語大学、神戸学院大学、甲南大学等）

⇒大学の教職課程への参加（模擬授業体験）や福祉・スポーツに関する講義受講、自分らしい生き方についての課題研究における連携など

○その他、SSH、SGH指定を活用した大学との連携（大学教授による講演、授業受講）

神戸市が市内の高校生に提供するプログラム①

インターンシップ

- 市立須磨翔風高等学校をモデルとして、市役所見学・説明会や須磨区役所でのインターンシップ等を2019年3月に実施
⇒私立高等学校等への今後の展開についても検討中
- ものづくり人材育成インターンシップを2007年度より継続実施（科学技術、神戸工科高等学校）
- 東灘区役所において県立東灘高等学校の生徒を受け入れ（2018年度～）
- 神港橋高等学校の通年型インターンシップ受け入れ（兵庫図書館 ※他、企業やNPOでも受け入れ）
⇒将来の職業生活を見据えた「望ましい職業観・勤労観」と「コミュニケーション能力」の育成を目的として、3年生（情報類型システム活用コース）のうち希望者が計21回実習

国際交流

- 神戸市・韓国青少年国際交流事業
市内在住又は在学の高等学校、高等学校専門学校の1・2年次の生徒（中学校2・3年次も対象）を募集し、韓国（仁川広域市と大邱広域市）の中高生の受け入れ及び観光への派遣に2年に渡り参加
⇒2年間を1セットとして各市への受入及び派遣を実施しており、2018-2019年度分は募集済み
（市立葺合、市立須磨翔風、県立兵庫、県立伊川谷、私立神戸山手女子、私立松蔭などの高等学校から参加）
- 神戸・シアトル高校生教育交流プログラム
姉妹都市であるシアトル市へ、交流使節団メンバーとして神戸市立高等学校及び高等専門学校の生徒を派遣するとともに、シアトルから来日する生徒の学校訪問とホームステイを通じて、相互に交流を実施

神戸市が市内の高校生に提供するプログラム②

工業系・商業系を対象とした就職ガイダンスの実施

- 2018年度から実施しており、市内の工業系・商業系の高校2年生以下を主に対象
⇒市内企業による合同企業研究会を開催し、早期から市内企業を知る機会をつくって地元就職につながる取り組み
（市立神港橋、市立科学技術、県立兵庫工業、県立神戸商業、私立神戸村野工業から参加）

区役所と高等学校との連携協定締結（2018年～）

- 垂水区
高校生による地域活性化と次世代の人材育成を目的として、区内の全高等学校（県立神戸商業、県立舞子、県立星陵、私立愛徳学園、私立神戸国際大学附属）と連携協定を締結
⇒今後、垂水区学生会議を立ち上げまちの課題解決に向けた提案を学生にしてもらったり、まちづくりや防災等に関する職員の出前授業の開催などを予定
- その他の区においても積極的に連携協定を締結し協力
東灘区（県立御影）、灘区（私立親和女子）、兵庫区（市立神港橋）、長田区（県立兵庫、私立野田）など

国における高等学校改革の動き（学科の在り方見直し）①

政府の教育再生実行会議では、2019年5月17日に、生徒の約7割が在籍する「普通科」の見直しを柱とする高校改革に関する提言をまとめた。

報道によると、この後、中央教育審議会が今夏を目処に文科省令などの制度改革に向けた議論を始め、2021年度からの導入を目指す。

Society5.0(※)の到来、グローバル化、人口減少を伴う少子高齢化、選挙権や成年年齢の18歳への引き下げ等

⇒高等学校への進学率は98.8%（H29）まで上昇しており、こうした社会の変化に対応しながら生き抜く力を育成する上できわめて重要な役割を担う一方、各種調査結果では高校生の学校生活への満足度が低下

○改革目標

Society5.0をたくましく生きる人材の育成

- ・一人一人の能力を最大限に引き出す多様な学びの提供
- ・各教科での学習を実社会での問題発見・解決に結びつける学習の重視
- ・文系・理系のバランスがとれた資質・能力の育成

※Society5.0：サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会であり、内閣府の第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されたもの。

国における高等学校改革の動き（学科の在り方見直し）②

○学科の在り方の見直しについて

生徒の約7割が普通科であることから、特に改革目標に沿って、生徒の意欲と関心を喚起し、能力を最大限引き出すことができるよう、各校が選択可能な学習の方向性に基づいた類型の枠組みを検討

⇒今後、中央教育審議会等で専門的・実務的に検討されるが、現時点での類型例は下記の通り

- ①自らのキャリアをデザインできる力の育成
- ②グローバルリーダーシップ育成
- ③科学技術分野を牽引する素養の育成
- ④地域課題の解決を通じた探求的な学びの重視

※ただし、建学の精神の下で教育活動を実施している私立学校や、中山間地域等において多用な進路希望を有する生徒を受け入れている学校等には、実態を踏まえた適切な配慮が必要としている

※また、大学入学者選抜等を過度に重視したような文系・理系の偏りからの脱却もあわせて必要と提言

2. 新時代に対応した高等学校改革

背景

- 高等学校は中学校を卒業したほぼ全ての生徒が進学。一方、高校生の能力、適性、興味・関心、進路等が多様化。高等学校が対応すべき教育上の課題は複雑化。
- 少子高齢化、就業構造の変化、グローバル化、AIやIoTなどの技術革新の急速な進展によるSociety5.0の到来など、高等学校を取り巻く状況は激変。
- これからの高等学校においては、生徒一人一人が能動的に学ぶ姿勢を身につけさせるとともに、文理両方をバランスよく学ぶこと等を通じ、Society5.0をたくましく生きる力を育成。

主な提言事項

(1) 学科の在り方

- 全ての高等学校において、生徒受入れに関する方針、教育課程編成・実施に関する方針、修了認定に関する方針を策定
- 国は、普通科の各高等学校が、教育理念に基づき選択可能な学習の方向性に基づいた類型の枠組みを提示

<類型の例>

- キャリアをデザインする力の育成重視
- グローバルに活躍するリーダーの素養の育成重視
- サイエンスやテクノロジーの分野等におけるイノベーターとしての素養の育成重視
- 地域課題の解決等を通じた探究的な学びの重視

- 類型の種類や履修・指導体制の在り方について、中央教育審議会等において専門的・実務的に検討
- 文系・理系科目をバランスよく学ぶ仕組みの構築

【参考】生徒数（平成29年度）

普通科	239万人（73%）
専門学科	71万人（22%）
総合学科	18万人（5%）

(6) 中高・高大の接続

- 文理両方を学ぶ人材の育成の観点から、文系・理系に偏った試験からの脱却を目指し、大学入学者選抜の在り方の見直し
- 入学者選抜改革やカリキュラム改善等、教育の質向上に取り組む大学の支援の充実
- 高等学校卒業者の職業選択である「一人一社制」について、よりよいルールとなるよう検討

(2) 高等学校の教育内容、教科書の在り方

- 新高等学校学習指導要領の着実な実施
- 社会の変化に対応するための学習指導要領の一部改訂の実施、標準的な授業時間の在り方を含む教育課程の在り方の見直し
- 技術革新の進捗が早い分野の教科・科目に係る教科書の弾力的見直しを検討

(4) 教師の養成・研修・免許の在り方

- 校内研修の充実、ベテランから若手教師への知識技能の伝承
- 教師の資質の向上に関する指標について学校種ごとに記述
- 特別免許状の弾力的な活用等による、ポストク、企業人材、アスリート、芸術家などの外部人材の活用
- 特色ある教育活動を推進している校長の在職期間の長期化など、人事異動の在り方の再点検

(7) 特別な配慮が必要な生徒への対応

- 不登校などの多様な課題を抱える生徒に対応するためのスクールカウンセラーなどの専門人材の配置状況の把握と、適正な配置・活用に向けた方策の検討、SNSを活用した教育相談体制の充実
- 高等学校における通級による指導の充実、高等学校入学者選抜における合理的配慮
- 障害のある生徒の自立と社会参加に向けた学校と関係機関等の連携
- 日本語指導が必要な帰国・外国人生徒等の受入体制の充実

(3) 定時制・通信制課程の在り方

- 定時制・通信制課程における生徒のキャリア形成に必要な社会的スキル等の育成方策について検討
- 通信制課程において「高校生のための学びの基礎診断」の活用促進等による質の確保・向上
- 広域通信制高等学校の第三者評価の実証研究結果等を踏まえた更なる質の確保・向上

(5) 地域や大学等との連携の在り方

- 高等学校と市町村、産業界、大学等が協働した地域課題の解決等を通じた学びの実現
- 高等学校におけるコミュニティ・スクールの導入と地域学校協働活動の実施の推進
- 高等学校と地域をつなぐコーディネーターの役割やその在り方の検討

(8) 少子化への対応

- 離島・中山間地域等の小規模な高等学校において、ICT等の導入や高等教育機関との連携強化により学習の多様性や質の高度化を図る
- 都道府県における検討に資するよう、都道府県における高等学校の再編や小規模校の活性化の状況や事例を情報提供

出典：教育再生実行会議「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について（第十一次提言）」（2019年5月17日）

少子化に伴う高等学校教育のあり方に関する有識者会議

委 員

(五十音順)

摺河 祐彦	兵庫県私立中学高等学校連合会理事長／ 兵庫県播磨高等学校長
森地 高文	神戸商工会議所副会頭／ 株式会社神戸製鋼所顧問／神鋼商事株式会社代表取締役社長
山中 伸一	元文部科学事務次官／ 学校法人角川ドワンゴ学園理事長／株式会社ドワンゴ取締役
和田 孫博	神戸市私立学校協会会長／ 灘中学校・高等学校長

開 催 状 況

第1回 令和元年12月16日

- 現状と将来推計について
- 次世代人材育成に向けた高等学校教育の推進について

第2回 令和2年2月3日

- 提言書（案）に関する意見交換